

編集後記

遅れましたが、『記録と史料』第21号をお届けいたします。

◇東日本大震災の犠牲になられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された多くの皆様に対し謹んでお見舞い申し上げます。全史料協としてもさまざまな支援に取り組みはじめていますし、今後息の長い活動として取り組むものであると考えています。

3月11日の震災は、我々一人一人に大きな傷跡として刻み込まれ、変わり目となることでしょう。被災地では、未曾有の惨状とともに、我々の記憶の元たる記録の多くも奪い去られたという状況を耳にしています。復興の基礎となるはずの多くの公文書が流され、又は水に浸かり使用できない状況となり、復興への障害となっている現状があるようです。復興の道のりは、まず緊急性の高いところということになると思いますが、生活の基盤や社会の基盤が作られるときには、記録の重要性が問われることになるでしょう。かろうじて残された文書をどう復元・補修するのか。そもそも復興過程の記録をどのように次へ伝えて行くのか。我々にも大きく重い課題が突きつけられているのです。

◇広報広聴委員会を2年間勤めさせていただき、最後の出版物となる今号は、研究2本をはじめ、世界の窓3本、アーカイブズネットワーク4本、書評7本、資料ふあい

るとして調査・研究委員会による重要な公文書取り扱いに関するアンケートの結果報告を掲載することができました。

◇千葉県文書館の展示活動を中心に文書館の展示活動について論じた尾崎氏の研究は、千葉県文書館における具体的な展示活動を紹介すると共に、その活動が組織としての文書館にもたらす良い影響に言及しています。ただ、漫然と続けてしまっている徳島の展示活動を顧みたと、きちんとした評価の必要を痛感しました。

富田氏には地方自治体においては今後主たる形態になって行くであろう、複合館について、芳賀町総合情報館を例に正面からお書きいただきました。調査・研究委員会のアンケートを見ても公文書館機能を各自治体に良い形で定着させていくためにはこの議論は欠かせません。

◇今後、東日本大震災への対応がさまざまなところで議論の中心になっていくでしょう。アーカイブズの意義を心に刻み、しっかりと対応を心懸けていきたいものではないでしょうか。(K)

〔広報・広聴委員会〕

結城 孝典 (委員長)

亀岡 哲也 (編集長)

相京 眞澄 伊藤 康

金原 祐樹 五島 敏芳

白井 哲哉 高木 秀彰

長谷川 伸

記録と史料 第21号 平成23年3月31日

編集： 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 広報・広聴委員会

〒770-8070 徳島県徳島市八万町向寺山 徳島県立文書館

電話 088-668-3700 FAX 088-668-7199

発行： 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 (会長 富岡 守)

〒371-0801 群馬県前橋市文京町3-27-26 群馬県立文書館

電話 027-221-2346 FAX 027-221-1628

印刷： 徳島県教育印刷株式会社

〒770-0873 徳島県徳島市東沖洲2-1-13

電話 088-664-6776 FAX 088-664-6775